



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 389

Dezember 2023

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0085 兵庫県神戸市中央区八幡通2-1-20 磯上公園内

神戸リガッタ・アンド・アスレティック倶楽部内

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

Bei Kobe Regatta & Athletic Club

In Isogami-Park Yahata-Dori 2-1-20

Chuo-ku Kobe, Japan 〒651-0085

ドイツ語講座・ドイツ文化教室2023年度第Ⅳ期開講

1月9日(火)からドイツ語講座・ドイツ文化教室の2023年度第Ⅳ期が開講します。

長きコロナ禍を経て国際交流活動は、なお制限はあるものの、大分復活してきました。またコロナ禍によりオンライン活用の活発化などが見られるようになり、国際交流も多様化しています。ドイツ及びドイツ語圏との多様な交流の基盤となるのはドイツ語です。この機会をドイツ語の学習始め、ブラッシュアップ、学び直しの好機ととらえませんか。

開講授業の詳細については、同封のパンフレットをご覧ください。協会へお問い合わせください。

ドイツ語講座の多くのクラスは前期からの継続クラスですが、途中からの受講は可能です。

今年の冬は、駅からも近い教室でドイツ語講座・ドイツ文化教室に参加しませんか。ご参加をお待ちしています。

ドイツ文化教室『ドイツ語による歌の世界』新規開講

「ドイツ語による歌の世界」はドイツ歌曲を中心に歌を1つ1つ読み取っていく講座です。ドイツ歌曲はシューベルトら大作曲家を通して、他言語の歌曲よりもいち早くクラシックにおけるジャンルとして、成り立つに至ったものです。その美しさ、芸術性をより一層楽しめるよう、少し奥へ覗いてみましょう。講座では歌手による視点から、実際どのように歌作品への取り組みを行っているかということも含めてお話しさせていただきます。初回は歌曲の王と呼ばれたシューベルトの作品を取り上げていく予定です。非常に多くの作品がありますが、「音楽に寄せて(An die Musik)」をはじめ、有名なものを取り上げていきたいと思います。

講師：バリトン歌手 奥川 幸一さん

日時：毎週火曜日10:50～12:10（1月16日開講）

参加費(税込)：一般30200円 会員28700円

関西地区日独協会合同新年会のお知らせ

2024年の新春に関西地区日独協会合同新年会を開催します。

関西地区の大阪、神戸、奈良、和歌山、大津、京都の日独協会は、平素より互いに連携して、日独親善交流に努めています。合同新年会は、各日独協会の会員が新春に集まり、新年を祝賀し、相互の懇親を深めるために毎年年頭に開かれているものです。

会場は、「アサヒスーパードライ梅田店」が昨年10月末に閉店しましたので、大阪梅田の「ニュートーキョー第一生命ビル店」に変更になります。会場の変更に伴い、これまで飲食代は各自清算制でしたが、パーティープラン形式の事前予約制になりました。

会員の皆様にはこの合同新年会にぜひともご参加いただき、新しき年のドイツとの交流についてご歓談していただきたく、ご案内いたします。

日 時：2024年1月12日(金) 18:30～

会 場：ニュートーキョー第一生命ビル店

大阪梅田第一生命ビルB2（ヒルトンホテル隣）

TEL06-6346-7451

JR大阪駅徒歩2分、御堂筋線梅田駅徒歩3分

会 費：4500円(パーティーセット 飲み放題付き)

定 員：45名

申 込：2024年1月9日(水)午前までにメール・電話・FAXでお申し込みください。

E-mail:info@jdg-kobe.org * TEL/FAX 078-230-8150

※年末年始12月23日～1月8日閉室期間中はメール、Faxにて

主催行事報告

クリスマス祝賀会に参加して

会員 沼田 宏明

神戸リガッタ・アンド・アスレチック倶楽部において、クリスマス祝賀会が開催されました。事務所移転後初めてのクリスマス祝賀会になります。ドイツ文化教室「ドイツオペラへの招待」やこれまでの祝賀会での演奏など神戸日独協会でご活躍いただいている次郎丸智希先生の勤務先変更により、神戸日独協会の行事ではしばらく先生にお目にかかることができないため、次郎丸先生による記念「コンサート」が企画されました。その後恒例の「クリスマス祝賀会」開催という二部構成でした。コンサートは次郎丸智希先生自らのピアノ伴奏により、シューベルト「楽興の時」、シューベルト「即興曲第3番」、次郎丸智希「フリードリヒが見た風景」、リスト「ラ・カンパネラ」が披露されました。演奏の合間に各曲の簡単な解説をいただき、また先生自ら作曲された「フリードリヒが見た風景」については、作曲に至るまでの経緯・着想などもお話いただきました。熱のこもった演奏について時間が経つのを忘れるようなコンサートとなりました。

ミヒヤエル・イエーレ首席領事ご夫妻にご臨席いただき、コンサートに引き続きクリスマス祝賀会を開催しました。会長挨拶、イエーレ首席領事の来賓挨拶、乾杯の音頭で会食・懇談会は始まりました。各テーブルでは会員・一般参加者を問わず会話に花が咲き、終始和やかな雰囲気でご会食・懇談会を皆さまが楽しめたのではないかと思います。スライドショーによる年間活動報告の後に、会員の皆さまのご協力で集まったプレゼントのお楽しみ抽選会もあつて盛り上がりしました。最後に次郎丸先生のリードでクリスマスソングの合唱を行い、出席者全員で記念撮影を行いお開きとなりました。年の締め括りに相応しい心に残るイベントだったと感じました。末尾ながら、会員の皆さまのプレゼントのご協力に深謝いたします。

ドイツ語特別セミナー「週末に外国語を」に参加して

～言葉は人間関係～

辻 知里

私は大学で第2外国語としてドイツ語を学び、それから10年後の2021年、ドイツへの語学留学を目標に学習を再開しました。しかし、通っていた某語学教室での、教科書をなぞるような学習方法に徐々に行き詰まりを感じていました。約3年に及ぶドイツ渡航計画の最終盤、来春の航空券を片手に学習のモチベーションが上がらないなか、神戸でこんなセミナーがあるよ、と知人に教えられ、現状打破の機会になりそうな予感から飛びつくように申し込みました。

まずは言葉を話す際の抑揚について、日本のテレビアナウンサーや動画を例に学びました。ドイツ語の短文を聞き取り、次にそれらを何度も繰り返し口に出して真似ることで、アクセントや“流れ”を体感しました。すべての言語に共通する4つの決まりごとをはじめ、言語コミュニケーションの出現やその拡大と分散など、言語の歴史的・地理的な側面についても講義を聴きながら、遥か昔へと想像を巡らせる時間となりました。冠詞や名詞の性、形容詞の語尾変化など、これまで教科書の表をじっと眺めては記憶することを半ば諦めていた無味乾燥なアルファベットの連なりが、システムティックかつ合理的であることは大変な驚きでした。文法の仕組みや、なぜそうなっているか、という理由を知り、改めて言語がコミュニケーション“ツール”であることを認識しました。

一方で、翻訳ソフトを同様に“ツール”として用いるには注意が必要であることも学びました。müssen, können, werden, würden, wollen, möchtenなどが用いられる際には、機械的な日本語訳には現れない話者の心境が実は表現されていることや、会話の相手により意図的に選択された言葉であることがよく理解できました。そして他者との関係性の中でこそ、はじめて言語が生き生きとしたものとなることを実感しました。今回のセミナーを終えて“言語それ自体”が全世界共通のツールであることに気づき、やみくもに単語や文法の暗記に注力していたドイツ語学習の停滞期を乗り越えることができたように思います。

一つの質問に対して休憩を挟まなければならないほどの知識量で、惜しみなく丁寧に説明くださった Stefan 先生、またこのような刺激的な経験をくださった神戸日独協会の皆様に心より感謝申し上げます。

会 員 の 広 場

このコーナーは、会報を通して会員相互の交流をしていただくための「広場」です。ご投稿をお待ちしています。

投稿規定●MSPゴシック12ポイント、A4サイズ1枚程度まで(多くの方に投稿していただくために字数を厳守してください)、添付データにてメールで毎月第4月曜までにお送りください。

ベルリン オペラ事情

理事 押尾 愛子

「オペラが大好きで、時々ヨーロッパに見に行きます」と言うと、「やっぱりイタリアですか？」と聞かれます。ミラノに行って、スカラ座で每晚オペラを見られたらいいのですが、スカラ座は週に1～2回しかオペラを上演していません。2回やっていても同じ演目です。イタリアのオペラハウスは、ひとつの演目を約1ヶ月3～4日毎に繰り返して上演するやり方なので、スカラ座でいろいろ見たいと思ったら、毎月行くしかありません。

それで以前一度、今日はミラノ、次の日はトリノ、その次の日はヴェローナ…と毎日イタリアの都市を移動しながらオペラ巡りをしたことがあります。毎日スーツケースを持って電車に乗って移動で疲れてしまいました。

その点ドイツ語圏のオペラハウスは、週に3演目くらいオペラを上演してくれるので、効率よく見られます。しかも Wien には Staatsoper(国立歌劇場)だけでなく Volksoper もあるし、München には Bayerische Staatsoper(バイエルン州立歌劇場)だけでなく Gärtner Platz Theater もあります。中でもベルリンには Deutsche Oper Berlin、Staatsoper unter den Linden(ベルリン州立歌劇場)、Komische Oper とオペラハウスが三つもあるので、毎晩どこかでオペラが見られるところか、同じ日に見たいオペラが重なって、どちらに行こうか迷うこともしばしばです。

11月8日～22日、またドイツにオペラを見に行きました。18日(土)は Berlin の Deutsche Oper で Wagner の“Die Meistersinger von Nürnberg”を見る予定でしたが、同日に Staatsoper unter den Linden で“Mitoridate, Re di Ponto”「ポントの王、ミトリダーテ」Mozart の初期の作品)を静岡県舞台芸術センターの芸術総監督、宮城 聡が演出をしているのが気になって、“Meistersinger”は開演前の Einführung を聞いて、第1幕(16:00～17:30)だけ見てから Staatsoper に行き、19:00から見ました(その後“Meistersinger”の第2幕、第3幕がどうだったかは、ホテルに戻ってから主人に聞きました。主人もオペラファンです。ただ、私が演出とか装置とかが気になるのに対し、主人は歌が中心です)。

Berlin にある三つのオペラハウスのうち、Deutsche Oper はかつての西ベルリンのオペラハウスです。一方、Staatsoper unter den Linden は旧東ベルリンのオペラハウスで、どちらも覇を競いあっています。Komische Oper も旧東ベルリンのオペラハウスですが、Deutsche Oper や Staatsoper が大掛かりなオペラをするのに対し、Komische Oper は劇場も小さく、オペレッタやミュージカルも上演して、少し毛色が違います。東西が統一されて一つになった Berlin にオペラハウスは三つも要らない、一つに統合すればいいという意見もありましたが、三つともそれぞれ特色

があり、集客力もあります。この11月、Deutsche Oper は Wagner の大作を次々と上演し、一方 Staatsoper はバロックオペラを日替わりで上演と、どちらも意欲的なプログラムでした。少し古い2018年のデータですが、Deutsche Oper と Staatsoper がそれぞれ年間約300公演で観客数は24万人くらい、Komische Oper も約240公演で22万人集めていて、当分、統合はなさそうです。

ドイツ語ミサ ご存知ですか？ Deutsche Messe

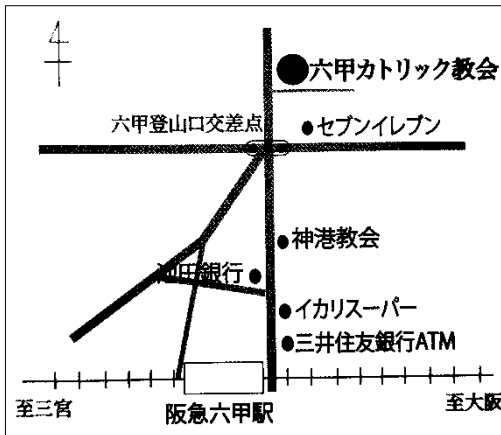
会員 井川 伸子

最初のドイツ語のカトリック共同体は、約30年ほど前にケルクマン神父によって創立され、イエズス会の男子校、六甲学院のチャペルで、ミサが行われていました。その後、長年続いていたドイツ語ミサがなぜ途絶えてしまったのか、その理由は残念ながら分かりませんが、それだからこそ、2020年10月、関西カトリックドイツ語ミサ共同体が、元大阪神戸ドイツ総領事マルティン・エバートさんによって新しく設立されたことは、非常な喜びとするところです。彼は敬虔なクリスチャンで日本にカトリックをもっと広めようと思っていた頃、ドイツから東京の聖ミカエル教会に派遣されてきたミルコ・クヴィント神父が神戸でもミサを挙げたいと思っていたので、ちょうどいいタイミングでこの創立に至ったわけです。最初は、カトリック住吉教会のご聖堂をお借りしておりましたが、少し前から六甲カトリック教会のチャペルでミサを行うことになりました。まだ少人数のドイツカトリック共同体にとって、六甲教会の小聖堂はちょうどいい大きさで、この場を提供してくださった六甲教会の神父さまを始め、みなさまに大変感謝しております。

ドイツ語ミサは、毎月最終の日曜日の15時から行われます。ミサのあとは、引き続き共に楽しむティータイムがあります。ご興味のある方はぜひご参加ください。心よりお待ちしております。

※お問い合わせは nobuko.ikawa03@gmail.com (井川伸子)まで

Die erste Deutsche katholische Gemeinde wurde vor ca. 30 Jahren von Priester Kerkmann gegründet und in der Kapelle der Jesuiten Jungenschule "Rokko Gakkuin" abgehalten. Warum es nach vielen Jahren eine Unterbrechung gab, ist leider nicht bekannt. Umso mehr freuen wir uns, dass im Oktober 2020 die deutsche katholische Gemeinde "Katholisch in Kansai" durch den vorherigen Generalkonsul, Herrn Martin Eberts, wieder neu ins Leben gerufen wurde. Weil er als Gläubiger Katholik sehr interessiert war, den katholischen Glauben in Japan weiterzuverbreiten und gleichzeitig ein Priester, Mirco Quint, aus Deutschland nach Tokyo kam, der sich bereit erklärte auch in Kobe Messen abzuhalten, stand der Gruendung nichts mehr im Wege. Eine Kirche wurde zunächst in Sumiyoshi gefunden und seit kurzer Zeit feiern wir die Messen in der katholischen Gemeinde der Kapelle der Rokko Kirche. Wir sind der Gemeinde der Rokko Kirche und dem dort zuständigen Priester sehr dankbar, dass uns die Kapelle, die auch für unsere noch kleine deutsche katholische Gemeinde von der Größe sehr passend ist, zur Verfügung stellt wurde.



Die deutschen Messen finden jeweils am letzten Sonntag eines jeden Monats um 15:00 Uhr statt und anschließend gibt es eine Teezeit mit gemütlichen Beisammensein.
Jeder ist herzlich eingeladen, wir freuen uns sehr über viele neue Interessierte und Gläubige.

Anfrage bei Frau Ikawa: nobuko.ikawa03@gmail.com

ドイツ文化サロン

第19回 『ロシア映画と映画祭に魅せられて』

コロナ禍で中断していましたドイツ文化サロン『女性が支える国際交流』を9月にウクライナ出身のプロバレエダンサーのビクトリア・コスチュチェンコさんとパートナーの男性ダンサーのボグダン・チャバニクさんをお招きして再開しましたが、次にお話しいただくのはロシア映画の紹介者で研究家の扇 千恵さんです。

扇さんはもともとセルゲイ・エセーニンを中心にロシアの詩文学を研究されていましたが、1986年タシケントの映画祭に参加し、多様な映画の面白さと、映画祭の楽しさに惹かれて、以来、映画の研究並びに紹介をされています。モスクワ国際児童青少年映画祭、ウラジオストック国際映画祭には何度か審査員として招かれました。ロシア映画の魅力、映画祭の魅力、映画人との交流などについてお話しいただきます。

オリンピックの棒高跳びで活躍したブブカ選手の通訳を10年間務め、ブブカ選手から「大阪のお母さん」と呼ばれています。

講師：扇 千恵(おうぎ ちえ)さん

大阪大学・同志社大学などでロシア語講師を歴任

「ロシア映画を勉強する会」(神戸元町映画館)主催

著書(翻訳)『ソヴェート映画史 七つの時代』(ネーヤ・ゾールカヤ著)

『タルコフスキイの映画術』(アンドレイ・タルコフスキイ著)

日時：2024年2月16日(金)14:00～16:00(開場13:45)

会場：未定 参加者に後日連絡)

会費(ケーキと飲物代)：一般1500円会員及び家族1300円

※当日受付にてお支払いください。

申込：2月14日(水)までにメール・電話・FAXでお申し込みください。

E-mail: info@jdg-kobe.org * TEL/FAX 078-230-8150

※年末年始12月23日～1月8日閉室期間中はメール、Faxにて

ドイツ歌声サロン

昨年10月より「ドイツの歌を歌う会」が復活しています。

この会は、協会主催「ビアフェスト」などでお馴染みの岩島佳子さんを講師として、ドイツ歌曲・オペラの名曲、ドイツの流行歌や映画音楽(リリーマルレーン、会議は踊るなど)、ビアソングのみならずドイツの家庭や集会で広く歌われ、日本でも親しみ歌い継がれてきたドイツの愛唱歌をも採り上げています。

1月は引き続き、Edelweiß(エーデルヴァイス)、Das Kufsteiner Lied (Die Perle Tirols)(クフシュタインの歌(チロルの真珠))、An die Freude(歓喜の歌、ベートーヴェン交響曲第9番第4楽章で歌われる第一主題)を歌います。

講 師 : 岩島 佳子さん

日 時 : 2023年1月13(土) 13:30~15:00

場 所 : 神戸リガッタアンドアスレチック倶楽部教室

参 加 費 : 2000円

参加条件 : 一般公開ですので、会員以外にも多くの方のご参加をお待ちしています。

ドイツ語の歌を主として歌いますが、ドイツ語を知らない方もご配慮しますので、ぜひともご参加ください。

申 込 : メール・電話・FAXでお申し込みください。

E-mail:info@jdg-kobe.org * TEL/FAX 078-230-8150

※年末年始12月23日~1月8日閉室期間中はメール、Faxにて

ハントアルバイトの会(ポーセラーツ)

11月より手仕事による製品作りのお好きな方の「会員サークル ハントアルバイトの会」が活動しています。カルチャー教室などでビーズ&ジュエリー刺繍やポーセラーツ等を学ぶ「ぶどうの木」を主宰している堀田真美子さんを講師としてお招きして、初めは磁器への絵付けの基礎講座として、急須などの和風ティーセットに転写紙による絵付けを教えていただきます。

初めて参加の方はマグカップや小皿を、継続参加の方は希望の食器に希望の絵柄で製作します。自分のデザインによる食器作りを楽しみましょう。ご参加をお待ちしています。

講 師 : 堀田真美子さん

日 時 : 1月28日(日)14:00~16:00

場 所 : 神戸日独協会事務室兼教室

会 費 : 初心者1000円、継続者3000円 (材料費+窯焼き代+道具使用料)

参加条件 : 一般公開ですので、会員以外にも多くの方のご参加をお待ちしています。

申 込 : メール・電話・FAXでお申し込みください。

E-mail:info@jdg-kobe.org * TEL/FAX 078-230-8150

※年末年始12月23日~1月8日閉室期間中はメール、Faxにて

第229回テーマ「何にお金を使うか」

日 時 : 2023年11月18日(土)14:00~16:00

場 所 : 神戸日独協会会議室

今回の司会は川見正之氏が担当され、「日本人は何にお金を使うか」の興味深いアンケートの結果について話された。このアンケートによると、1位は旅行で、2位は貯蓄、以下、外食費、家での食事、趣味、投資、と続く。司会者自身は、若い頃はスキーによく行ったが、最近では国内、特に近くへの旅行、展覧会や音楽会、ジムでのトレーニングに費用をかけている。円安で海外旅行はしていない。

以下に、参加者の皆さんの発言を一部紹介する。

- ケーキを焼くのが趣味だが、最近材料の値段が高くなっているのが悩み。特にバターの値段が高い。また、国内旅行も趣味で、信州はお気に入りの旅行先。
- ドイツでは多くの人が、将来自身の埋葬費が結構な金額になるので、それに備えるための貯蓄をしている。
- 品質やデザインの良いイタリア製の家具や美しいデザインの衣服を買う。ブランドに関係なく、品質の良いものを買う。美しいものに囲まれて心に豊かさを感じる。
- 常に自身の健康を保つため、スポーツジムでいろいろなスポーツを行う。スポーツへの費用は自身にとっての投資である。
- 子供たちの為の家を含め、住居に投資をする。また、健康第一で、自身の健康の為にも必要な投資する。
- お金を使うときは、いつも、本当に必要なものかどうかをよく考えて、不要なものは買わない。
- 子供たちの教育の為にお金を使うが、とても大きな負担である。教育の為の出費でも、特に塾に掛かる費用は大変大きい。
- コロナ禍で最近海外旅行をしていないが、ヨーロッパ諸国の町や村に一か月ほど滞在して、ハイキングやスポーツを楽しむ。お気に入りの滞在地の一つは、スイスのウエンゲンである。

今後のドイツ談話室の予定

第231回 2024年1月20日(土)14:00~16:00 テーマ : 辰年

Protokoll der 229. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag, 18. November 2023, 14 bis 16 Uhr

Thema: Wofür ich mein Geld ausbe

Dieses Mal hatte Herr Masayuki Kawami die Gesprächsleitung und sprach über die Ergebnisse einer interessanten Umfrage zum Thema „Wofür geben Japaner ihr Geld aus“.

Laut dieser Umfrage sind Reisen der wichtigste Ausgabeposten, gefolgt von Sparen, Essengehen, zu Hause essen, Hobbys und Investitionen in Aktien. Der Leiter selbst fuhr früher, als er jünger war, viel Ski, gibt aber heute mehr für Reisen im Inland aus, insbesondere für Ausflüge in nahe gelegene Orte, Ausstellungen und Musikkonzerte sowie für das Training im Fitnessstudio. Aufgrund des schwachen Yen reist er nicht ins Ausland.

Hier einige der Wortmeldungen zum Thema.

- Das Hobby einer Teilnehmerin ist das Backen von Kuchen, aber sie ist besorgt darüber, dass die Preise für die Zutaten in letzter Zeit teuer geworden sind, vor allem der Preis für Butter ist zu hoch. Sie reist auch gerne im Inland, Shinshu ist ihr Lieblingsziel.
- Laut einer Teilnehmerin sparen viele Menschen in Deutschland für ihre eigenen zukünftigen Bestattungskosten, die recht teuer sein können.
- Eine Teilnehmerin kauft hochwertige und gut designte italienische Möbel und schön gestaltete Kleidung. Sie kauft unabhängig von der Marke Waren von guter Qualität. Sie fühlt sich durch schöne Dinge bereichert.
- Eine Teilnehmerin ist ständig im Fitnessstudio, um sich fit zu halten. Ausgaben für Sport sind eine Investition in sich selbst.
- Eine Teilnehmerin investiert in Wohnraum, darunter auch in das Haus ihrer Kinder. Sie legt auch Wert auf ihre Gesundheit und tätigt notwendige Investitionen für ihre eigene Gesundheit.
- Wenn eine Teilnehmerin Geld ausgibt, denkt sie immer genau darüber nach, ob sie alles wirklich braucht, und vermeidet den Kauf von Dingen, die sie nicht tatsächlich braucht.
- Eine Teilnehmerin gibt Geld für die Ausbildung ihrer Kinder aus, was aber eine große Belastung ist. Die Ausgaben für Ausbildung, insbesondere für Abendschulen, sind sehr hoch.
- Wegen der Koronakrise ist ein Teilnehmer in letzter Zeit nicht mehr ins Ausland gereist, verbringt aber gerne einen Monat in Städten und Dörfern europäischer Länder, er wandert und treibt Sport. Einer seiner Lieblingsorte ist Wengen in der Schweiz.

Nächste Treffen :

Samstag, 20. Januar 2024, 14 bis 16 Uhr. Thema: Das Jahr des Drachens

1月の企画委員会開催のお知らせ

この会は協会と会員との交流のための会です。8月より会員の参加を得て、協会の事業について種々の企画を提案していただき、協会の活動は活発化しています。ぜひとも参加し、協会の運営や企画などにご意見をください。

日 時：2024年1月13日(土)15:00～17:00

場 所：神戸日独協会

話 題：1月以降の事業予定、協会の発信について。

※ご出席いただける方は、メール・電話にてご連絡ください。当日参加も可。

事務室から

年末・年始は12月25日(月)から1月5日(金)まで閉室します。

※閉室期間中、催し等のお申込み・お問合せはメール・FAXでお願いいたします。

Das Büro der JDG Kobe ist von 25. Dezember bis zum 5. Januar geschlossen.

会報印刷・発送ボランティア募集

次回は1月25日(木)を予定しています。お手伝いいただける方は事前にご連絡ください。

印 刷：ひょうごボランティアプラザ印刷室にて9:00～11:00

(神戸市中央区東川崎町1-1-3神戸クリスタルタワー6階)

発 送：神戸日独協会にて12:00～

行事等の写真について

会報では輪転機印刷のため写真等の掲載は略させていただきます。

協会ホームページ及びSNSに掲載していますので、ぜひご覧ください。



ホームページ
Homepage



インスタグラム
Instagram



X
Twitter

これからの神戸日独協会の催し

日 時	催 し	会 場	申込〆切
1月12日(金) 18:30～	関西地区日独協会合同新年会	ニュートーキョー 第一生命ビル店	1月9日(火)
1月13日(土) 13:30～15:00	ドイツ歌声サロン	神戸リガッタ倶楽部	1月12日(金)
1月13日(土) 15:00～17:00	企画委員会	神戸日独協会	当日参加可
1月20日(土) 14:00～16:00	ドイツ語談話室	神戸日独協会	当日参加可
1月28日(日) 14:00～16:00	ハントアルバイトの会(ポーセラーツ)	神戸日独協会	1月24日(水)

